

安全管理に関するQ&A

Q. 農家民泊に初めて行くのですが、事前にどのようなことに気を付けておくべきでしょうか。

A. 体験プログラム・農家民泊受け入れ時に、求められることは、

- ・ 変更・緊急時の対処
- ・ 事故・ケガ・病気発生時の対処

等があります。これらは、来る側のみならず、受け入れ側も同様な不安があり、これらの不安を払拭させるための24時間連続連絡体制、緊急医療機関情報、事前情報の収集、対応を行っております。

Q. 日常の健康管理について相談したいときはどうすれば良いですか。

A. 事前にアレルギー等のアンケートを取っております。

健康面で不安がある場合は、必ず事前アンケートにご記入願います。

Q. 「参加者に掛ける保険」には、どのようなものがあるのでしょうか？

A. 活動中にケガをして治療で病院へ通った場合及び骨折などをして入院をした場合、「見舞金」として使える「傷害保険」があります。これは、治療費用を支払うのではなく、何日間通院したか？何日間入院したか？によって、契約した際の保険金額を実際に入院・通院した日数分お支払いします。また、けがの状況等により、保険対象にならない事例もございます。詳しくは旅行会社様にご確認ください。

Q. 学校に確認しておくべき事項はありますか。

A. 宿泊体験活動においては、健康状況の把握が重要です。必ず学校からもらう健康チェックシートを提出してください。確認する事項は、次の事項となります。なお、回答は個人の情報になりますから、その取り扱いには厳重に注意いたします。

農家民宿は、レストラン等と違い一般のご家庭と同じですので、事前にメニューの内容や

税分表をお出しすることはございませんが、アレルギー情報については、しっかり農家さんにお伝えして、対象の食品は仇視しないこと徹底しておりますのでご安心ください。

【参加する子どもの情報の事前収集例】

○氏名（ふりがな） ○生年月日，年齢（学年） ○血液型 ○性別

○連絡先（住所・電話番号・FAX番号・携帯電話番号）

○身長・体重 ○平常体温 ○日常起床時間・就寝時間 ○乗り物酔いの有無

○最近一年間の身体状況（かかった病気など）

心臓病 胃腸病 下痢気味 肝臓病 高血圧 中耳炎 結膜炎 アトピー性皮膚炎 湿疹

小児喘息 感冒 貧血症 捻挫（部位は ） 骨折（部位は ） 痙攣発作 薬品アレルギー
副作用をおこす薬

○アレルギーの有無，ある場合は下記の（※1）【アレルギーチェックポイント】を参照

○持病の有無，ある場合は詳細

○持参の薬（薬名・服用方法・発熱体温）

○生活面・健康面で心配なこと

○協議会に伝えておきたいこと，心配なこと（学校として・親として）

○本人の趣味・特技など

※1 【アレルギーチェックのポイント】

アレルギー疾患の種類

（例：喘息，アレルギー性鼻炎，アトピー性皮膚炎，アレルギー性結膜炎，そのほか）

アレルギーの原因（例：食物，ハチ毒，ダニ，ハウスダスト，ペットのフケ・毛，花粉，カビ，ラテックス＝天然ゴム液，金属，薬物，そのほか）

具体的に（アレルギーで食べられない食物名等）

アレルギーの具体的な症状（どうなるか？）

・ 最近起きたアレルギー症状のこと

・ 運動したときに発症するか（運動との関係の有無）

・ アナフィラキシーショックの経験の有無，原因

・ 過去にハチに刺されたことの有無，エピネフリン自己注射器携行の有無

治療薬の種類

治療薬の携帯の有無，携帯している治療薬の種類

主治医・かかりつけ病院の連絡先，緊急時の連絡先

対応の手順 医師の指示書があるときはその写し

そのほか，要望事項全般

Q. 地震・津波等防災に関する留意点について教えてください。

A. 基本行動の4つのポイントを受入農家には徹底しております。

①地震観測情報の発表段階で速やかに現場指導者へ連絡し、次段階への対応体制を整えておきます。

②地震注意情報(注1)発表時点で一切の行動を中止し、速やかに避難を開始します。退避前後、行動中に点呼(人数確認)を忘れずに行ってください。

③安全を第一にして、第一次避難地へ移動し、状況に応じて広域避難地へ移動をします。

④避難先は体験場所に近く、地震による土砂崩れや津波による被害がない高い場所を選定します。予め、実地踏査を行い、移動時間や距離、人数に適した広さが確保されているかなどを確認しておきます。

大田原ツーリズムでは、子どもたちを保護者へ引き渡すまでの間、生命の安全を第一責任と捉え行動しております。

Q. 救助体制の確立の仕方及びファーストエイド・キットについて教えてください。

A. 確実な救急体制を築くには緊急時対応マニュアルがございます。

1 事故が発生したときに、慌てず冷静沈着に状況を確認して、そして的確な判断を下し、早急な応急処置を行い、関係機関への連絡等を誰もが確実に行うことができるよう「緊急時対応マニュアル」を安全管理マニュアルとは別途に作成しております。また、すぐに手にとって見るような場所に、貼り出しています。受入れ前には、消防署や医療機関へ開催日や活動内容を伝えておくことで、いざというときにスムーズに対応をとってもらうことが可能となっております。休日・夜間救急診療機関や当直医等のリストを作成しております。

前日は、関係機関への連絡、救急車の進入道路や駐車位置に障害物が置かれていないか等、最終チェックをします。学校側と指示体制等を確認しております。

2 ファーストエイド・キット

体験プログラム内容によって、フィールドへ持っていくファーストエイド・キットは必要最小限を用意します。取り出しやすいザックの上部にパッキングして、使用期限もチェックしておきます。

Q. 緊急連絡シートを教えてください。

1 学校・大田原ツーリズムの緊急連絡シートとのすり合わせを行います。

(1) 事故が起きたときに、協議会・学校・旅行会社が、それぞれバラバラに連絡をしないようにするためです。

具体的には、独自の緊急連絡シートを作成のうえ、事前に、学校及び旅行会社と協議し、すり合わせを行い、必要に応じて学校や旅行会社の緊急連絡シートにリンクできるようにしております。

(2) 状況ごとに対応できるようにしております。

緊急連絡シートは、事故の内容、発生した場所、被害者の数、指導者側の数等によって手順（役割分担）も変わる可能性がありますので、①宿泊先の事故、②体験中の事故、③移動中の事故に分けて、緊急連絡シートが如何なる場合においても対応可能かを確認しております。